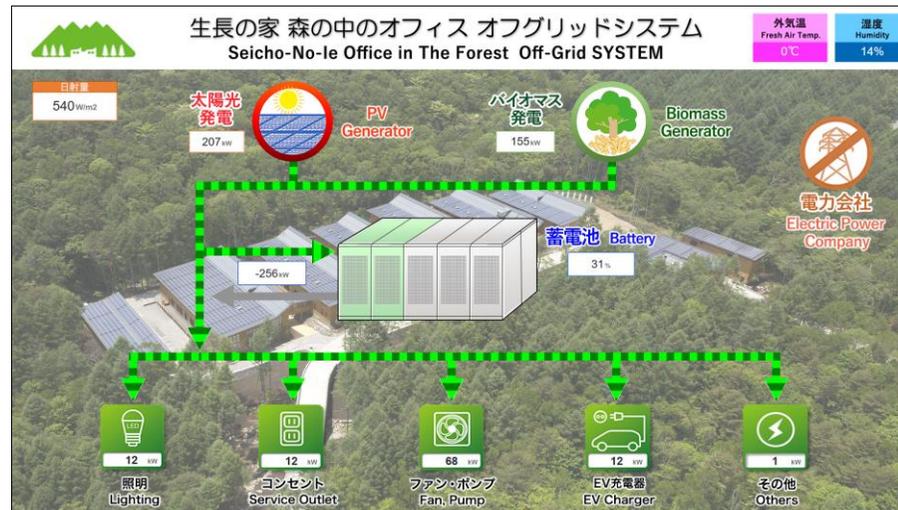


# 生長の家環境マネジメントシステム 2021年度 環境パフォーマンス報告書



※オフグリッドシステムの説明パネル

ISO14001国際規格に基づき、2021年度（1月～12月）の生長の家における環境パフォーマンスを報告します。

発行：2023年1月14日

作成：宗教学法人「生長の家」国際本部環境共生部

担当：環境共生部（桜井、河野）

問い合わせ先：山梨県北杜市大泉町西井出8240番地2103

TEL：0551-45-7747（直通）

# 教団としての啓発活動

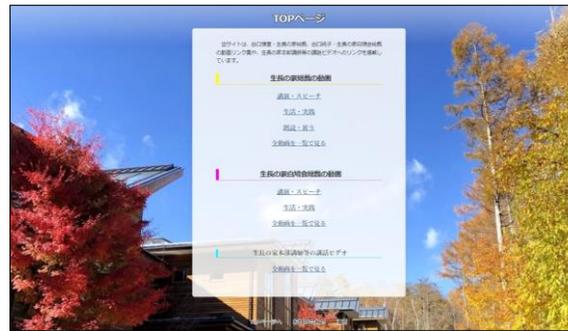
生長の家では、「神・自然・人間は本来一体である」という宗教的真理に基づいて、人々のライフスタイルを自然と調和した持続可能なあり方に転換して行くことを目指し、地球環境問題の解決に貢献する生き方を推奨しました。

## 新年のビデオメッセージ



2021年1月1日、谷口雅宣・生長の家総裁の新年のビデオメッセージを、生長の家公式サイトで一般に公開。メッセージの中で、新型コロナウイルス感染症の蔓延する中でも、日時計主義で生きる大切さをご教示。さらに、新型コロナウイルス感染症も地球温暖化も、人類のこれまでの考えと行動によって引き起こされているため、人間は自然界の一部である自覚を深め、「神・自然・人間は本来一体である」とのメッセージとそれに基づく生活法を世界にひろめる必要性を呼びかけられました。同ビデオは、英語、ポルトガル語、中国語、韓国語、スペイン語、ドイツ語の6言語の字幕入り動画も同時に公開されました。

## SNI-動画リンク集



谷口雅宣・生長の家総裁、谷口純子・生長の家白鳩会総裁の動画リンク集や、生長の家本部講師等の講話ビデオへのリンクをまとめたウェブページです。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、生長の家講習会をはじめ、講演会、練成会、誌友会等の対面の行事を開催することが難しい状況の中、この取り組みは生まれました。掲載の動画は、どなたでもご視聴いただけます。どうぞ環境保全の啓発、また明るい人生を築くための指針や活力として、自己研鑽やネットフォーム等において積極的にご活用ください。

生長の家の動画リンク：

<https://snivideolinks.ubemstudygroup.com/>

## 書籍、月刊誌



谷口雅宣・生長の家総裁監修の『“新しい文明”を築こう（上巻）基礎篇「運動の基礎」』『“新しい文明”を築こう（中巻）実践篇「運動の具体的展開」（写真左）』、谷口純子・生長の家白鳩会総裁著の『森の日ぐらし』等の書籍の頒布を通じて、自然と人がともに繁栄する“新しい文明”のライフスタイルへの転換を促しました。また、生長の家の組織会員向けの月刊誌（機関誌『生長の家』）、一般向けの月刊誌『いのちの環』（総合誌）『白鳩』（女性誌）『日時計24』（青年誌）に、毎号、環境保全に関する記事を掲載しました。

写真（右）：月刊誌『いのちの環』『白鳩』

『日時計24』（各2021年10月号）

# PBS（プロジェクト型組織）の活動を通して

生長の家では、人間の欲望追求のために自然を破壊し、地球温暖化による気候変動を引き起こしている“古い文明”から、自然の繁栄が人間の繁栄となる“新しい文明”への転換を促すために、PBS（プロジェクト型組織、以下の3つの組織）によってその価値観と低炭素のライフスタイルを生活の中で実践し、ミニイベントの開催やインターネット上のFacebookなどのSNSを使って広める活動に取り組みました。

## SNIオーガニック菜園部



「食卓から未来を変える」日本教文社刊  
「SNIオーガニック菜園部」の活動紹介の本

SNIオーガニック菜園部は、「ノーミート、低炭素の食生活」を実践し、普及するPBSです。メンバーがノーミートの食生活を心がけることはもちろん、野菜や穀物については、有機農法によってベランダや家庭菜園で自ら栽培することに挑戦し（写真参照）、それらを収穫し食すことで、地域と季節に即した自然の恵みの有難さを味わい、地域の人々とも共有しています。

また、購入する食材は、有機無農薬で、地産地消・旬産旬消のものを選ぶことを勧めています。

## SNI自転車部



「自転車から平和を」日本教文社刊  
「SNI自転車部」の活動紹介の本

SNI自転車部は、「省資源、低炭素の生活法」を実践し、普及するPBSです。自転車はガソリン車の燃料となる化石燃料を使わず、CO2を排出せずに移動できる大きなメリットがあります。この自転車を生活の中で活用することで、二酸化炭素の排出を抑制し、地球環境保全に大きく貢献することができます。

また、上達する喜び、風を切って走る爽快感は子供も大人も、国も超えて世界共通です。自転車の利用（写真参照）で心豊かで健康的な毎日を送ることができ、その意義と楽しさを世界に伝えることによって世界平和を目指しています。

## SNIクラフト倶楽部



森の中のオフィス近隣で育ったナラの木から切り出した板材を活用した自然木の作品

SNIクラフト倶楽部は、「自然重視、低炭素の表現活動」を実践し、普及するPBSです。メンバーは、箸や写真立て、本箱、小物入れ用のポーチなど、生活の中で手にする身近なモノを、自分の手でつくっています。（写真参照）モノづくりに欠かせない“素材選び”は、木材なら国産材、植物や動物から分けてもらえる天然繊維の糸や布など、自然重視の選択をします。安く・早く・楽に手に入る大量生産、大量消費の消費生活から、身の回りのモノを大切に生かす、丁寧なライフスタイルを広めています。

# インターネットでの啓発、家庭での取り組み

生長の家では、インターネットを活用した啓発活動に取り組みました。また、生長の家の会員、信徒には、信仰に基づく倫理的な生活者として、『日時計日記』と「生活の記録表」の活用等を通して、低炭素なライフスタイルへの転換を奨め、地球環境問題の解決に貢献する生活実践に取り組みました。

## インターネットを活用した啓発

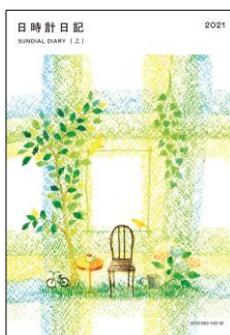


生長の家公式サイトを活用し、低炭素のライフスタイルの普及とそれを実践するPBSの活動を前面に打ち出しています。

また、SNI-動画リンク集の谷口雅宣・生長の家総裁、谷口純子・生長の家白鳩会総裁の動画や、生長の家本部講師等の講話ビデオをインターネット上（Facebookやzoom等）で視聴して、参加者同士が感想や意見を交換する生長の家遠隔情報交流会（生長の家ネットフォーラム）を開催し、積極的に啓発活動に取り組みました。

写真：生長の家公式サイト のトップページ

## 『日時計日記』と「生活の記録表」の活用



『日時計日記』（2021年版）



「生活の記録表」（2021年版）

谷口純子・生長の家白鳩会総裁監修の『日時計日記 2021年版』（生長の家刊）を活用して、その日の「環境に配慮したこと」の記載や「生活の記録表」を用いて記載することを推奨しました。会員、信徒などを対象に「生活の記録表」（生長の家国際本部発行、36,000部）を活用し、電気、ガス、水道、灯油、ガソリンの消費量とCO2排出量を記録し、自宅に太陽光発電装置を設置している場合には、その売電量に見合うCO2削減量も加算することにして、前年と比較してCO2排出量の削減に取り組みました。

また、2016年4月からの電力の自由化に伴い、原発や火力発電所由来ではなく、環境負荷の少ない再生可能な自然エネルギーからの電力の調達比率が高い新電力（PPS）を選択することを推奨しました。「生活の記録表」の配布による家庭でのCO2排出削減の取り組みは2001年度から継続しています。

# 「ノン・ロックリレー」で脱原発、低炭素社会の実現をアピール

2021年4月17日～4月26日

ノンロック（NONLOC）・リレーとは、No-Nuclear（脱原発）、Low-Carbon（低炭素）の頭文字を並べた造語で、脱原発、低炭素社会の実現を目指した自転車によるイベント。生長の家国際本部“森の中のオフィス”を出発し、東京都、埼玉県、茨城県、栃木県を經由。福島県の生長の家福島・西郷ソーラー発電所まで、合計7日間をかけて総距離約691kmを総勢79人の走者が、自転車でバトンをつなぎました。



原発ゼロ | No-Nuclear  
低炭素 | Low-Carbon  
ノンロック・リレー  
**NONLOC Relay**  
自然エネルギーを活用し原発ゼロの社会へ



出発式を行い、富士河口湖練成道場へ。二日目は羽村駅で街頭募金を実施しました。

Facebook上に公開グループを立ち上げ、コースの紹介や走者へのインタビューをライブ中継で配信しました。

好天に恵まれ、前半を終了。茨城県では、最高齢走者が軽やかに快走しました。



後半は、栃木県、西那須野駅からバトンを繋ぎ、福島県に入り、福島県教化部へ。

走者から走者へと「脱原発、低炭素社会の実現」の願いを込めてバトンをつなぎました。

ゴール地点である福島・西郷ソーラー発電所前で帰着式を行い、“自然と共に伸びる”新しい価値の実現を誓い合いました。

# 自然エネルギー拡大運動を推進

生長の家では、人類社会が自然エネルギーを全面的に利用することによって「脱原発」と「地球温暖化の抑制」を実現し、自然と人間がより調和した生き方を実現することを目的として、自然エネルギー拡大運動を展開しています。

## 自然エネルギー拡大募金を継続



2014年7月1日から開始した「生長の家自然エネルギー拡大募金」では、2021年度は、3,408口、34,080,000円（2021年1月1日～12月31日）の募金が集まり、累計金額では573,130,000円となりました。

2017年からは、現地の太陽光パネルには寄付者名（希望者）を銘板に掲示することに加えて、日本語版ウェブサイトでも寄付者名を閲覧できるようにしました。

写真：自然エネルギー拡大募金のウェブサイト  
<https://www.jp.seicho-no-ie.org/naturalpower/>

## 大分・別府地熱発電所が稼働



自然エネルギー拡大運動の一環として、大分県別府市に教団初の地熱発電所を2019年4月10日に竣工、2020年10月から稼働し、2021年も安定稼働を継続しました。

発電出力は50kW、2021年度の年間実発電量は、252,811kWhでした。

地熱発電は、24時間発電できるため、設備利用率は80%以上で、太陽光発電（12%）より効率のよい発電ができています。

地熱発電は1年を通じて一定量を発電できるという優れた安定性を持っているため、ベースロード電源と位置づけられています。

写真：生長の家大分・別府地熱発電所（別府市）

## 自然エネルギー利用への助成



自然エネルギーの利用を促進するために、組織会員を対象に、太陽光発電・小型風力発電装置、リチウムイオン蓄電池、電気自動車の導入に際して、助成金を支給しています。

### 【2021年度の助成の実績】

#### ◆太陽光発電装置の導入件数

23件：助成金額 2,444,000円  
※発電出力1kWあたり2万円

#### ◆電気自動車の導入件数

6件：助成金額 1,800,000円  
※1台上限30万円、本体価格の10%まで

#### ◆リチウムイオン蓄電池の導入件数

30件：助成金額 2,488,000円  
※1kWhあたり1万円

# “炭素ゼロ”運動の成果

生長の家では、2007年度から教団の活動に伴うCO2排出量を実質的にゼロにする“炭素ゼロ”の運動を展開してきました。過去12年間で進めてきた“炭素ゼロ”の運動は、ISO14001の取り組みによる継続的改善などによって2021年度も成果を上げることができました。

## 主要3事業所が14年連続で達成



2021年度の主要3事業所（国際本部、総本山、宇治別格本山）におけるエネルギー起源8項目（電気、都市ガス、LPガス、灯油、A重油、ガソリン、軽油、上下水道）のCO2排出量、並びに職員の出張・外勤の移動や本部主催の行事参加者の移動に伴うCO2排出量は、2007年度から14年連続で“炭素ゼロ”を達成しました。

炭素排出量	221,073.5 kgCO2
炭素相殺量	-1,968,215.6 kgCO2
総合計	-1,747,142.1 kgCO2

写真：宇治別格本山（京都府宇治市）が京都府綾部市に建設したメガソーラー発電所（1,255kW）

## 他61事業所も合算では“炭素ゼロ”



2021年度の国内の事業所（教化部・練成道場）計61カ所におけるエネルギー起源8項目等のCO2排出量の総合計は、昨年につき、排出権を購入することなく相殺することができ、“炭素ゼロ”を達成しました。

炭素排出量	812,071.9 CO2kg
炭素相殺量	-2,067,221.5 CO2kg
総合計	-1,255,149.6 CO2kg

※炭素相殺量とは太陽光発電の売電分、森林吸収分、自然エネルギー拡大募金による削減分などによって見込まれる炭素削減量のこと。

写真：岡山県教化部会館（岡山市）の太陽光発電装置（50kW）

## 省エネ、再エネ利用による削減



左記の“炭素ゼロ”の達成の要因としては、各事業所の省エネの取り組みが着実に進んでいること、電力購入先をCO2の排出係数の低いPPS（新電力）へ切り替えていること、事業所の太陽光発電の発電による炭素削減効果、事業所が所有する森林のCO2吸収量による炭素削減、植樹植林等の会員努力（次頁参照）、メガソーラー・大規模ソーラーの発電による炭素削減量（次頁参照）を、各教区からの自然エネルギー拡大募金の口数に応じて配分したことなどが奏功しています。

写真：福島・西郷ソーラー発電所（福島県）

# “炭素ゼロ”運動の成果

生長の家の京都・城陽メガソーラー発電所、福島・西郷ソーラー発電所、及び国内の事業所の太陽光発電装置によって、二酸化炭素排出削減が進み、教団全体の“炭素ゼロ”達成に大きく貢献しています。こうした国内の太陽光発電装置だけでなく、海外を含めた発電出力を合算すると14メガワットを超えており、生長の家国際太陽光発電所（仮想）と名付けて啓発を行っています。

## 大規模ソーラーの炭素削減量



409世帯分



杉79,374本分

生長の家が建設した京都・城陽メガソーラー発電所（2015年3月稼働）、福島・西郷ソーラー発電所（2015年12月稼働）、大分・別府地熱発電所（2020年10月稼働）の3カ所の2020年度の発電量は以下の通りとなりました。

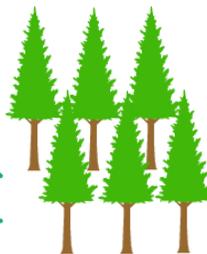
### 【2021年度の発電量】

京都・城陽メガソーラー発電所：621,611.34 kWh  
 （一般家庭の約229世帯分に相当）  
 福島・西郷ソーラー発電所：293,161.68 kWh  
 （一般家庭の約108世帯分に相当）  
 大分・別府地熱発電所：196,468.737 kWh  
 （一般家庭の約72世帯分に相当）  
 3発電所の発電量の合計：1,111,241.757 kWh  
 （一般家庭の約409世帯分に相当）  
 3発電所によるCO2削減量の合計：1,111,241.757 kgCO2  
 （杉の木の年間CO2吸収量に換算すると79,374本分に相当）

## 生活の記録表の活用等の 会員努力によるCO2削減



297世帯分



杉57,747本分

2020年度より、生長の家として「教化部敷地その他、会員の努力による二酸化炭素削減」を評価することが決定され、教化部等の敷地内の森林、会員の森林の所有、植樹・植林、生活の記録表提出による炭素削減量が炭素相殺に用いられるようになりました。

2021年度は、808,458.8kgCO2（杉の木の年間CO2吸収量に換算すると、57,747本分に相当）の炭素削減が評価されました。

なお、生活の記録表の教区の提出状況については、2020年度の33教区に対して、2021年度は36教区であり、3教区増加しました。また、生活の記録表の会員の提出状況は、2020年度の365名に対して、2021年度は676名であり、311名（85.2%）増加しました。

1世帯：2,720kgCO2 杉1本：14kgCO2で計算

## 生長の家国際太陽光発電所（仮想）



生長の家では、国内外の事業所だけでなく、国内の組織会員、海外の聖使命会員が設置している太陽光発電装置の発電出力を合算して表示する仮想発電所を「生長の家国際太陽光発電所」として、その発電出力の総合計を、組織会員向けの機関誌、一般向けの3種の月刊誌に掲載して、自然エネルギーの拡大を啓発しています。

2021年12月15日の発電出力：15,017.56kW  
 （前年比+510）

写真：一般向け月刊誌3誌に毎月掲載している「生長の家国際太陽光発電所」の例

# 森林保全活動への寄付と飢餓救済のための募金活動

生長の家では、森林の減少を少しでも食い止めるため、WWF ジャパンによる森林保全活動に寄付を行って支援をしています。また、生長の家“森の中のオフィス”では、飢餓救済を目的とし、毎月1回、食堂利用者に提供される昼食を、一杯のご飯と味噌汁だけにする「一汁一飯」に取り組み、WFPへの寄付を実施しています。

## WWFの森林保全活動に寄付



生長の家では、WWF ジャパンによる「インドネシア森林保全プロジェクト」に寄付しました。日本国内で継続している「生物多様性保全募金」の全額、及び①谷口雅宣・生長の家の総裁の著書（谷口純子・生長の家白鳩会総裁との共著を含む）の益金の一部と、②生長の家の月刊誌3誌の森林寄付金（1誌に付1円）分から200万円を含め、2021年度は、総額1,553,578円でした。この寄付金は、インドネシアのスマトラ島の2つの国立公園周辺及び、ボルネオ島の3つの州において、熱帯林を保護するためのパトロール、植林、調査活動、地域住民への環境教育の実施などに役立てられています。

写真：森を守る次世代を育てる環境教育の実施

## 「一汁一飯」で飢餓救済に寄付



生長の家“森の中のオフィス”の職員食堂では、2014年4月から、環境問題は資源や飢餓の問題と密接に関係しているとの観点から、世界の飢餓に苦しむ人々に心を寄せ、毎月1回「一汁一飯」の日を設け、減らした食材費で1食300円を寄付する活動を始め、取り組みは生長の家の世界の各拠点に広がっています。2021年度の寄付金額は152,700円（510食分）になり、民間協力の窓口である認定NPO法人国連WFP協会を通じて国連WFP本部（ローマ）に寄付をしています。

写真：一杯のご飯と味噌汁だけの「一汁一飯」

## クリック募金で飢餓救済に寄付



生長の家の産業人の組織である生長の家栄える会では、同会公式サイトで「飢餓救済クリック募金」を運営し、ユーザーがクリックをすると、協賛している企業等より、毎月そのアクセス数に応じた金額がNPO法人国連WFP協会を通じて国連WFP本部（ローマ）に寄付され、飢餓に苦しむ人々に食糧が届けられる仕組みを作り、活用しています。2021年度の寄付金額は1,012,305円（協賛企業15社）となりました。

飢餓救済クリック募金

<http://www.jp.seicho-no-ie.org/kiga/index.html>

# 教団外への環境保全の啓発活動

外部への啓発活動として、生長の家では、WFP（飢餓救済の募金）フードバンク、生活困窮者への寄付等の様々な活動を通して、その背景にある教えを紹介し、環境保全への啓発を行っています。

## WFPへの募金、オフグリッド、フードバンク、生活困窮者への寄付

WFPへの募金約333万円（2020年度）が飢餓に苦しむ人々の命をつなぐ一助に。寄付に対し感謝状が授与されました。



生長の家の大規模ソーラー発電所(2ヶ所)の売電先の「みんな電力」のWebサイト『顔の見える発電所』に同発電所の紹介が掲載されました。



“森の中のオフィス”のオフグリッド化について『日経アーキテクチャ』に記事が掲載されました。



「食料支援プロジェクト（オーガニック菜園部）」で集まった食品を、社会福祉協議会とフードバンク山梨に届けました。



NHK・BS1の番組「渋沢栄一に学ぶSDGs未来を切り開く人々」の中で、オフグリッド化した“森の中のオフィス”が紹介されました。



根菜プロジェクト（オーガニック菜園部）で育てたじゃがいもと玉ねぎを、介護事業所「ほくと夢ポケット」さんに届けました。



# オフグリッド、ZEB（ゼロ・エネルギー・ビル）の成果

生長の家“森の中のオフィス”は、当初からゼロ・エネルギービル（ZEB）として建設され、2020年には、大容量の蓄電池を“森の中のオフィス”に増設して、電力会社の配電網と連携せず、自然エネルギー100%で運用する「オフグリッド」のシステムを構築しました。このコンセプトを国内の教化部会館などの建て替えに順次適用させています。

## “森の中のオフィス”（山梨県北杜市）



生長の家“森の中のオフィス”

2020年には、大容量の蓄電池（3,468kWh）を“森の中のオフィス”に更新して、電力会社の配電網と連携せず、自然エネルギー100%で運用する「オフグリッド」のシステムを構築しました。

年間の発電量504,938kWh、使用量504,590kWhでした。

## 原宿光明の塔（東京都渋谷区）



生長の家原宿光明の塔

2021年度の原宿光明の塔（旧国際本部会館の一部を教団の歴史的建造物として残した建物）の電力量年間集計では、発電量36,162kWh、使用量11,434kWh、買電量12,985kWh、売電量24,728kWhとなり、PEBとなりました。

## メディアセンター（山梨県北杜市）



生長の家メディアセンター

2021年度のメディアセンター（出版・広報部門のオフィス、スタジオ兼ギャラリー）の電力量年間集計では、“森の中のオフィス”同様、発電量が使用量を大きく上回り、ZEBを越えてPEBを達成しました。年間の発電量55,255kWh、使用量8,648kWh、買電量15,784kWh、売電量は46,607kWhでした。

## 福島県教化部（福島県郡山市）



生長の家福島県教化部会館

教団初となるオフグリッドシステム（電力会社とつながずに電力を自給するシステム）を導入した建物を建設しました。

年間の発電量68,031kWh、使用量1,349kWhでした。

## 茨城県教化部（茨城県笠間市）

---



生長の家茨城県教化部

2021年度の生長の家茨城県教化部会館は、発電量が使用量を大きく上回り、ZEBを越えてPEBを達成しました。年間の発電量70,657kWh、使用量、16,532kWh、買電量22,767kWh、売電量は56,107kWhでした。